

# 国立国語研究所 研究成果発表会 2014

## 国 語 研 の 現 在

所長 影山太郎

### 《大学共同利用機関とは》

Inter-University Research Institute Corporation

◎ 4つの大学共同研究利用機関法人

#### 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館〔歴博〕（千葉県佐倉市）

国文学研究資料館〔国文研〕（立川市）

国立国語研究所〔国語研〕（立川市）



国際日本文化研究センター〔日文研〕（京都市）

総合地球環境学研究所〔地球研〕（京都市）

国立民族学博物館〔民博〕（吹田市）

#### 情報・システム研究機構

国立極地研究所・国立情報学研究所・統計数理研究所・国立遺伝学研究所

#### 自然科学研究機構

国立天文台・核融合科学研究所・基礎生物学研究所・生理学研究所・分子科学研究所

#### 高エネルギー加速器研究機構

素粒子原子核研究所・物質構造科学研究所・加速器研究施設・共通基盤研究施設

### ◎大学共同利用機関の役割

・研究者コミュニティによって運営され、国内外の研究者に研究の場を提供し、全国の国公立大学の研究者のための学術研究の中核的研究拠点として先端的な共同研究を行う。これにより、我が国の学術研究の発展に重要な貢献を行う。

【注】「共同研究」とは、大学間・機関間（inter-university）の共同研究（すなわち、研究所が中心になり、国内外の大学・研究機関との

collaboration [共同・協業・協力・連携] によって行う研究体制) のこと。

#### 1. 日本が世界に誇るトップレベルの研究機関

独自性と多様性を持ちながら、それぞれの研究分野における中核的研究拠点（COE：Center of Excellence）として、重要な研究課題に関する先導的研究を進める世界トップレベルの研究機関で、海外の研究機関や研究者との協力・交流を推進し国際的中核拠点としての役割をも果たす。

#### 2. 世界に類を見ない我が国独自のシステム

各機関は、外部の研究者を含む運営会議や各種の委員会を設置し、研究者コミュニティに開かれた運営を行う。また、大学の研究者との共同利用・共同研究を円滑に行うため、教員制度、中期目標・中期計画などの運営・評価は国立大学法人に準じたシステムをとる。

#### 3. 高度な大学院教育への参加

総合研究大学院大学（略して総研大）の基盤機関として、高度な大学院教育を担い、また、国公立大学の大学院生を受入れ、大学院教育に協力。

### 《大学共同利用機関としての国語研》

◎ 1948年12月に発足し、独立行政法人を経て、

2009年10月1日に大学共同利用機関

◎ 基本的な考え方（2009年9月、新日本語研究機関設置準備委員会）

1. 日本語を世界の諸言語の中に位置づけ、その特質と普遍性の研究を推進する国際的研究拠点とする。
2. 現代日本語を中核とし、歴史研究を含む言語研究諸領域を包括する。
3. 日本語以外の言語研究や関連する分野との共同研究の推進を図る。
4. 大学を中心とする国内外の日本語研究者・日本語教育研究者に開かれた協業の場として運営。

◎名称：「国研」から「国語研」へ  
 国立国語研究所（略称，国語研）；すなわち言語  
 の研究所  
 英語名 National Institute for Japanese  
**Language and Linguistics** (略称，NINJAL)

## 《日本語研究への2つのアプローチ》

ソト（世界）からの観点



ウチ（国の内部）からの観点

## 《国語研の活動》

### 重点の置き方

- ・学術的先進性（学界を牽引する共同研究）
- ・国際性（国内から世界へ）
- ・社会貢献（研究成果を一般社会に還元）
- ・次代を担う若手研究者の育成

### 国語研の強み

- ・日本語研究に対する多角的な視点（ウチからとソトから）
- ・言語研究と言語処理・情報学との融合

この2つによって、一般の大学には見られない  
 独自の活動を推進。

#### 1. 日本語資源のコーパス化と公開

現代語のほか、歴史、（危機）方言、日本語学習者などのコーパス（計画中）を構築・公開することにより、日本語の将来を確固たるものにする。

#### 2. 日本語研究の国際化

海外研究機関との連携、外国出版社との協定、国際シンポジウムの開催により、日本語研究の国際的存在感を高める。

#### 3. 研究情報・研究資料の収集とオンライン提供

各種の情報・資料を提供することによって、研究者コミュニティの研究促進に資する。

### A 共同研究の体制

#### 1. 外部機関の参加

共同研究員 合計 461 名（2013 年度）

共同研究員の所属機関 合計 205 大学・機関

（国内 166 機関 [国立大学 54，公立大学 17，私立大学 79，その他の公的研究機関 16]，外国 39 機関）

## 2. 共同研究のタイプ

### ・国語研独自の共同研究

基幹型 19 件（終了分も含む）

領域指定型（外部リーダー）8 件（終了分も含む）

独創・発展型 8 件（終了分も含む）

萌芽・発掘型 10 件（終了分も含む）

具体的な共同研究プロジェクト（詳細は『要覧』及びウェブサイトを参照）

### 基幹型

課題名	概念図	プロジェクトリーダー
日本語レキシコンの音韻特性	PDF	窪園 晴夫
日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性	PDF	影山 太郎
文字環境のモデル化と社会言語科学への応用	PDF	横山 詔一
日本語レキシコン-連濁事典の編纂	PDF	Timothy J. VANCE
消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究	PDF	木部 暢子
方言の形成過程解明のための全国方言調査	PDF	大西 拓一郎
多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明	PDF	相澤 正夫
日本語変種とクレオールの形成過程	PDF	真田 信治
日本語の大規模経年調査に関する総合的研究		井上 史雄
日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究		金水 敏
コーパスアノテーションの基礎研究	PDF	前川 喜久雄
通時コーパスの設計	PDF	近藤 泰弘
コーパス日本語学の創成	PDF	前川 喜久雄
形容詞節と体言締め文：名詞の文法化	PDF	角田 太作
節連接へのモーダルの・発話行為的な制限	PDF	角田 太作
述語構造の意味範疇の普遍性と多様性	PDF	Prashant PARDESHI
日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究	PDF	John WHITMAN
多文化共生社会における日本語教育研究	PDF	迫田 久美子
コミュニケーションのための言語と教育の研究		野田 尚史

領域指定型

課題名	概念図	プロジェクトリーダー
敬語と敬語意識の半世紀 - 愛知県岡崎市における調査データの分析を中心に -	PDF	井上 史雄 (明海大学外国語学部 教授)
言語の普遍性及び多様性を司る生得的制約：日本語獲得に基づく実証的研究	PDF	村杉 (斎藤) 恵子 (南山大学教授)
日本語教育のためのコーパスを利用したオンライン日本語アクセント辞書の開発	PDF	峯松 信明 (東京大学教授)
文末音調と発話意図とを統合した話し言葉のアノテーションの可能性 - 日本語諸方言の同意要求表現を中心に考える -	PDF	岡田 祥平 (新潟大学准教授)
パラ言語情報および非言語情報の研究における基本概念の体系化	PDF	森 大毅 (宇都宮大学准教授)
空間移動表現の類型論と日本語：ダイクシスに焦点を当てた通言語的実験研究	PDF	松本 曜 (神戸大学教授)
学習者コーパスから見た日本語習得の難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築	PDF	山内 博之 (実践女子大学教授)
日本語を母語あるいは第二言語とする者による相互行為に関する総合的研究	PDF	柳町 智治 (北星学園大学教授)

独創・発展型

課題名	概念図	プロジェクトリーダー
複文構文の意味の研究	PDF	益岡 隆志
大規模方言データの多角的分析	PDF	熊谷 康雄
接触方言学による「言語変容類型論」の構築	PDF	朝日 祥之
日本語文法の歴史的研究	PDF	青木 博史
近代語コーパス設計のための文献言語研究	PDF	田中 牧郎
多様な様式を網羅した会話コーパスの共有化	PDF	伝 康晴
日本語学習者用基本動詞用法ハンドブックの作成	PDF	Prashant PARDESHI
定住外国人の日本語習得と言語生活の実態に関する学際的研究	PDF	野山 広

萌芽・発展型

課題名	概念図	プロジェクトリーダー
訓点資料の構造化記述	PDF	高田 智和
会話の韻律機能に関する実証的研究	PDF	小磯 花絵
首都圏の言語の実態と動向に関する研究	PDF	三井 はるみ
仮名写本による文字・表記の史的的研究		斎藤 達哉
方言談話の地域差と世代差に関する研究	PDF	井上 文子
近現代日本語における新語・新用法の研究	PDF	新野 直哉
テキストの多様性を捉える分類指標の策定	PDF	柏野 和佳子
テキストにおける語彙の分布と文章構造	PDF	山崎 誠
文脈情報に基づく複合的言語要素の合成的意味記述に関する研究	PDF	山口 昌也
統計と機械学習による日本語史研究	PDF	小木曾 智信

- ・人間文化研究機構の連携研究  
大規模災害と人間文化研究

海外に移出した仮名写本の緊急調査

日本関連在外資料の調査研究

アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的  
解明

日本列島・アジア・太平洋地域における濃厚と言語の  
拡散

B 共同研究の国際化、国際発信

1 欧米・アジアの第一級の研究機関と研究協力

- ・マックスプランク進化人類学研究所(2010年～)
- ・オックスフォード大学日本語研究所(2010年～)
- ・台湾・中央研究院 語言学研究所(2014年3～)

2 各種の国際シンポジウムの開催

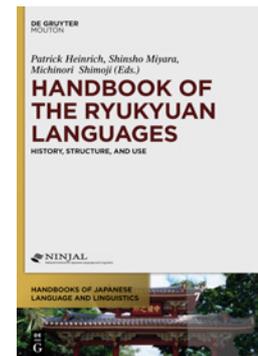
- ・共同研究や研究協力による国際シンポジウム
- ・海外に拠点を持つ国際会議の招致

3 英文研究書の国際出版

・ドイツ・Mouton社からのオファーにより、国語研の研究成果を世界に発信するための包括的協定を締結(2012年)。

出版計画

- ・Masayoshi Shibatani and Taro Kageyama (series editors), Handbooks of Japanese Language and Linguistics Series (全11巻)を



2014年から順次刊行。

- ・他にも共同研究の成果を論文集として順次刊行。

4 外国人教授の登用、外国人外来研究員の受入

C 共同利用

国語研の各種リソース(設備・施設、頭脳リソース、研究資料・研究情報等)を研究者コミュニティに提供し、国内外の研究の促進に役立てる。

1 研究成果の刊行(ウェブ発信)

- ・『NINJAL プロジェクトレビュー』
- ・『国立国語研究所論集』
- ・『国立国語研究所研究報告』
- ・『NINJAL フォーラムシリーズ』
- ・旧国立国語研究所(2009.9以前)の刊行物は、原則的に総てをPDF化して、ウェブ公開

## 2 日本語資源・研究情報の公開（ウェブ発信）



- ・ 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)
  - ・ 形態素解析辞書 UniDic
  - ・ 日本語歴史コーパス平安時代編
  - ・ 日本語話し言葉コーパス
  - ・ 明六雑誌コーパス
  - ・ 太陽コーパス
  - ・ 超大規模コーパス (100 億語規模) 構築中
  - ・ NLB (NINJAL-LWP for BCCWJ)
  - ・ Web データに基づく用例データベース
  - ・ 複合動詞レキシコン (国際版)
  - ・ 寺村誤用例集データベース
  - ・ 米国議会図書館所蔵『源氏物語』画像・翻字
  - ・ 研究所所蔵貴重資料の画像公開 (『金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大教王經』, 『古今文字譜』, 『聖遊郭 (雪月花)』その他の歴史的資料)
  - ・ 日本語研究・日本語教育文献データベース
  - ・ 雑誌『国語学』全文データベース
  - ・ 国立国語研究所所蔵文献目録データベース
  - ・ 日本語学習者発話コーパス(C-JAS)
  - ・ 日本言語地図
  - ・ 方言文法全国地図
- その他、多数

### 3 専門家向けイベントの開催

- ・ 国際シンポジウム
- ・ 共同研究プロジェクトの公開研究発表会
- ・ NINJAL コロキウム／講演会
- ・ NINJAL サロン

## D 一般社会への貢献，成果の社会還元

### 1 研究成果を一般社会へ還元するためのイベント

- ・ 一般向け公開学術フォーラム（毎年1回程度）
  - 第1回 日本語研究の将来 (2009.10)
  - 第2回 日本語教育における教育と研究の融合 - 過去と未来を繋ぐ- (2010.3)
  - 第3回 日本の方言の多様性を守るために (2010.12)
  - 第4回 日本語文字・表記の難しさとおもしろさ (2011.9)
  - 第5回 日本語新発見-世界から見た日本語- (2012.3)
  - 第6回 グローバル社会における日本語のコミュニケーション -日本語を学ぶことはなぜ必要か- (2013.3)
  - 第7回 近代日本語は。。。 (2014.3 予定)
- ・ 地方自治体の協力による学術セミナー（共同研究プロジェクトにより，全国各地で随時開催）
- ・ 研究所の一般公開（毎年10月）
  - ・ 「ニホンゴ探検」（小学生向け）毎年7月
  - ・ ジュニアプログラム（子供向けの出前授業）
  - ・ 中学生・高校生向け職業発見プログラム
- ・ 人間文化研究機構全体の公開講演会
- ・ 立川市教育委員会（歴史民俗資料館）との連携による講演会



### 2 一般向け解説書・啓蒙書の出版

（別紙 「著書一覧」を参照）

## E 若手研究者育成，大学院教育への協力

- 1 一橋大学との連携大学院
- 2 特別共同利用研究員（外部資金による国内外の大学院生を受け入れて指導）
- 3 NINJAL チュートリアル
  - 全国の大学院生・若手研究者に国語研の各種リソースを活かした最新の研究成果や研究方法を教授
- 3 危機方言フィールドワーク 指導プログラム
- 4 コーパスを使用するための講習会

